**付録**

～各部会の活動の中でで作成した成果物です～

1. **児童部会**

案内チラシ「放課後等デイサービスを知っていますか？」の配布

及びアンケート調査結果について

習志野市障がい者地域共生協議会児童部会

1. 案内チラシの配布及びアンケート調査目的

教育と福祉の連携については、学校と障害児通所支援事業所等との相互理解の促進や、保護者も含めた情報共有の必要性が指摘されており、地域で切れ目ない支援が受けられる支援体制の整備が求められている。

案内チラシの配布を通して放課後等デイサービスの理解促進を図るとともに、本アンケート調査結果により今後の連携強化の促進に向けた方策を検討していく。

1. 案内チラシの配布及びアンケート調査の方法

　平成３０年度第１１回定例校長会議（平成３１年２月１３日）にて案内チラシの配布及びアンケート調査を依頼。

　各学校に在籍する教員数分の案内チラシ及びアンケートを平成３１年２月１３日庁内便で送付。

　各学校とりまとめの上、庁内便で障がい福祉課が回収。

1. 調査対象者

　市内小･中･高等学校に在籍する教員、その他児童福祉に関わる支援機関職員

1. 調査期間

　平成３１年２月１３日～平成３１年２月２８日

1. アンケート調査の回収結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 配布部数 | 回収部数 | 回収率 |
| 全体 | １，１８４ | ６３５ | ５３．６３％ |
| 小学校 | ７２７ | ３３９ | ４６．５０％ |
| 中学校 | ３４７ | ２２６ | ６５．１２％ |
| 高校その他 | １１０ | ７０ | ６３．６３％ |

1. アンケート結果

Ⅰ１．福祉サービスの「放課後等デイサービス事業」をご存知ですか？

Ⅰ２．１で、[はい] と回答した方は、どこから「放課後等デイサービス事業」のことを知りまたか？　次の中からお答えください（複数回答可）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 全体 | 小学校 | 中学校 |
| 1. 学校のお迎えに事業者が来ている。
 | ２３１ | １８１ | ４６ |
| 1. 相談支援専門員から情報を得て知った。
 | ３８ | ２３ | １４ |
| 1. 学校内の会議等の情報から知った。
 | ８９ | ４９ | ３９ |
| 1. その他
 | ９１ | ５６ | ３０ |

その他記述

・生徒や保護者から聞いた。

・ひまわり発達相談センター等の支援機関からの情報。

・学生の時に事業所でアルバイト・ボランティアをしていた。

Ⅰ３．チラシはわかりやすい内容となっていましたか？

Ⅰ４．３で、[いいえ] と回答した方は、どの部分がわかりにくかったでしょうか？今後の参考にさせて頂きたいと考えておりますので、詳細にご記入頂けると助かります。

・支援サービスの違いをわかりやすくしてほしい。どういう事業所があるのか知りたい。

・具体的事例がもう少し詳しいとよい。

・学校との繋がりがわかりにくい。

・利用料金や時間を示した方がよい。

・OTやPT、STの先生はいるのか。訓練、支援の詳細が書いてあるとよい。

・学校の教育支援目標と連動してサポートを行っているということだが、実情と合っていなく難しいと感じる。

・放課後等デイサービスを利用する条件が受給者証を所持していることならば、記載を目立たせた方がよい。

・どのような方や団体が放課後等デイサービスの支援を行っているか明確でない。

・どのようなサービスなのか一目でわかると良い。文字が小さくてわかりづらい。

・サービスの説明が大きいとインパクトが出てわかりやすい。強調したい内容がわかりづらい。

・文字と絵が同じ色でわかりづらい。チラシの色がユニバーサルデザインでない。

Ⅱ１．現在、担当しているお子さんで放課後等デイサービス事業をご利用されている子どもがいますか？

Ⅱ２．１で、[はい] と回答した方は、放課後等デイサービス事業所と連携したことでどのようなメリットがありましたか？（複数回答可）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 全体 | 小学校 | 中学校 |
| 1. 当人の成長が促進されている。
 | ８５ | ６８ | １４ |
| 1. 保護者の休息が得られている。
 | ６４ | ５１ | １２ |
| 1. 福祉サービスの情報が得られた。
 | ２３ | １７ | ６ |
| 1. その他
 | １５ | １３ | ２ |

　　その他記述

　　　　・出欠確認。

　　　　・放課後の安心安全。

　　　　・学校以外の子供の様子を知ることができる。

　　　　・子どもが多数の人と出会える。

　　　　・情報の共有。

　　　　・あまりよくわからない。

Ⅱ３．今後、放課後等デイサービス事業所を見学する機会があれば、参加を希望されますか？

Ⅱ４．放課後等デイサービス事業について、ご要望又は知りたいことはありますか？

　　・利用できる時間や曜日、利用料金が知りたい。利用対象者の基準。集団療育のクラス分けはどのような基準であるか。特別支援学級のみならず、色々と支援を必要とする子への対応もやってほしい。

　　・人材確保や適正な予算での運営。

　　・どのように学校と事業所が連携していくか。

　　・具体的な支援方法及び内容。おやつ、宿題への対応はどうか。学習支援サービスはどんな人が教えるのか。ＬＤやＡＤＨＤの子どもへの対応。

　　・利用時間がフレキシブルであるとよい。平日の時間が短く、中学生の放課後は利用しづらい。

　　・放課後等デイサービスが出来始めた頃に比べ、ケース会議などの連携が薄くなった気がする。子どもの成長のためには学校との連携をよくした方がよい。

　　・保護者からどんな放課後等デイサービスがあるか聞かれるため、近隣他市を含めてリストがあるとよい。

　　・送迎時の駐車場所について調整が必要。

　　・情報の連携。放課後等デイサービスに通い始める前に事業所と連絡を取り合いたかった。お願いできるなら、具体的にやってもらいたいことを伝えたい。学校にも何かしらの方法で放課後等デイサービス利用開始したことを教えてほしい。

Ⅱ５．今後、教育と福祉が連携する上で、どのようなことが必要だと思いますか？

　　・専門職の増員。

　　・学校は各々の教育方針を持っているため、まだ閉鎖的な部分があるのが現状です。そのため、教職員の理解、保護者の理解、社会全体で子どもを支えていく環境づくりが必要。

　　・学校内にカウンセリングできる場所があるとよい。

　　・定期的な情報の共有、交換、発信。周囲の協力理解。児童の引き渡しの際の情報交換。それぞれが見ていない時の子どもの情報をきちんと連絡を取り合うこと。

　　・お互いの困り感を伝え合う場を設けたい。双方を繋げるコーディネーターなどが必要。学校のコーディネーターと事業所との関係づくり。

　　・お互いの見学、業務についての周知。

　　・窓口が１本化されるとよい。教育は教育委員会、福祉は福祉課にならないように。

　　・勤務時間との関係もあり、連携の仕方が大変と思われるため、構造的な変化が必要。

　　・学校の負担が大きいので福祉に介入してほしい。学校側の人手不足解消。

　　・共通のノートによる引継ぎ等。

　　・モニタリングを学期に１回程度実施するなど密な情報交換をする。

　　・担任が見て課題があると感じても、保護者の理解が得られない子どももいる。何の支援もしてもらえず、コミュニケーションもうまく取れないのはかわいそう。

　　・区分けせず、同一の児童には１回関係者で打ち合わせを必ずする必要がある。

　　・教育と福祉は子どもの幸福のため両輪でなければならない。目指すべき方向性とその為の手立てを具体的に話し合う。

　　・教育と福祉の求める環境に相違がある。昨今福祉の声が強いが学校現場の状況をぜひとも知ってもらいたい。その中で対応可能なことを選別する等連携を検討してもらいたい。

　　・児童が自己肯定感を持てるような指導のあり方を話し合えるとよい。

　　・ＷＩＳCの検査結果等を保護者を通じて求められるのは困る。開示に責任を持てない。

　　・互いの職種をよく勉強して連携する意味を知る。交流会などを持ち、お互いの知識を深める。

☆自由記載

　　・市内の学校で福祉サービスを利用されている方は何名いるか。また、学校と行っているケース会議の成功例などがあれば発信していただきたい。

　　・どのような部分に困難さを抱えていて、それらが放課後等デイサービスを利用してどのように改善されているのか知りたい。

　　・小中学校での義務教育では有効な活動なので、学校･家庭での周知が鍵である。高校ではボランティアでの参加者が現れるとよいと思う。

　　・保護者向けにも相談窓口が明らかになるようチラシを学期に１回程度配布してほしい。親に対する正しい理解をさせる手法が知りたい。

　　・校納金を集める際に困る時は、どこまで市に相談ができるか。

　　・５月くらいにチラシをいただけたら困り感のある保護者にお伝えできたと思います。

　　・保護者に紹介できるような資料があると助かります。

　　・すぐに癇癪を起こす子どもにはどのように対応すればよいか知りたい。

　　・支援を要する子どもが増えている。そういった子を持つ保護者も子育てに疲れ、仕事に逃げて、子どもが野放しになってしまう。

　　・保護者からの問いに答えられないほど、学校（教員）は放課後等デイサービスの知識が少ない。

＜考察＞

　・放課後等デイサービスの認知度は想定より高いものであったが、放課後等デイサービスでの具体的な支援内容は把握されていない傾向がある。

　・日頃関わりのあるお子さんが放課後等デイサービスに通うことで、放課後等デイサービスでの具体的な支援内容を知ることが多い。関わりがなければ知る機会もなく、今後教員全体に向けた周知活動を進めても効果的でないと思われる。

・各学校の中に福祉サービスを理解した職員がいれば、教員も必要時に相談ができるため、特別支援教育コーディネーターに向けた理解の促進及び相談しやすい関係づくりに着手することで、教育と福祉の連携を図っていく。